1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472200286
法人名	有限会社　朋悠生活研究舎
事業所名	グループホーム　ゆう柴田
所在地 （電話番号）	宮城県柴田郡柴田町剣崎2丁目4－3 （電　話）0224－58－2812

評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年10月17日

【情報提供票より】9月25 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　12　年　9　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤　9人、非常勤　人、兼務　人、常勤換算　人

（2）建物概要

建物形態	併設／〇単独	〇新築／改築
建物構造	木造　造り	
	1 階建ての　階　～　階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	55,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		〇　無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 〇無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1、100円		

（4）利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数		8 名	男性　3 名	女性	5 名
要介護1		3　名	要介護2	3	名
要介護3		1　名	要介護4	1	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	83 歳	最低　73　歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開所から7年、新興住宅地にあるホームの周りには住宅も増えてきている。明るいリビングからは外の景色、向かいの公園で遊ぶ親子連れの姿がよく見える。入居者は穏やかな笑顔で挨拶され、管理者の「不安なく穏やかに暮らせる家」という思いが職員のケアに対する姿勢にも反映されていると感じた。介護度が下がり自立して自宅に帰られた人、自分で食事を摂れるようになった人など、入居者本位に努力されている。今後防災の面で地域の協力を得たいということで、自治会を通してグループホームを理解していただく努力が必要であろう。それは職員も感じていることであり、もっとホームを地域に開放していきたいと課題にあげた。地域密着型サービスとしての多機能性を活かしたいという、これからの取り組みに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 改善事項は①申し送り事項確認のサイン　②事故予防のヒヤリハットの活用　③職員のストレスの解消であった。①は職員全員が目を通して確実にサインをする　②はヒヤリハットの様式を作り実行している　③は職員の話しを聴いたり、親睦会などで交流を図っていると、前回の評価後すぐに改善され、運営推進会議でも報告されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者・介護計画作成担当者・その他の職員1名の3人で自己評価を行い、サービスの成果に関する項目は職員全員で行った。まだ至らない部分もあり、最後のアピールしたい点が難しかったとのことである。自己評価により職員の意識合わせや見直しを行い、質の確保に活かしていただきたい。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 今年度はまだ一度の開催であり、サービス評価後2回目が開催予定である。ホームからは年間行事予定や地震避難訓練についてなど報告され、委員からの要望や行政からの助言など、意見交換がなされている。しかしメンバーについては民生委員は参加しているものの、入居者・地域住民の代表者の参加が得られておらず、地域密着型サービスとしての運営推進会議の目的が果たせていない。最低2ヶ月に1度開催し、さらにサービスの質の向上・確保が図られることを期待したい。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 管理者は常に家族に対し、要望や率直な意見を言っていただけるよう働きかけているが、感謝の言葉は聞かれるが意見などはあまり言っていただけないという。アンケートなども考えたということであるが、運営推進会議や行事など家族が参加しやすい状況を作りその機会を利用するなど、さらなる努力をお願いしたい。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 自治会に加入し、地域の作業や行事に参加し、地区の子供会のお祭りや七夕の行事で交流を図っている。ボランティアの受け入れには前向きであるが、地域性からか難しいという。開所当時より住宅が増え、自治会長さんの協力を頂くためにも、あらためてグループホームを理解していただく啓発も必要かと思われる。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別にホーム独自の理念を職員全員で作りあげている。「人としての尊厳を守ります」「地域の一住民として地域との関わりを深めていきます」と謳い、以前より地域に根ざしたホームを目指してきている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を意識し地域とのつながりは不十分と課題にあげ、実践に向け取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の除草作業などは入居者の参加は難しくなってきたが、運動会や子供会による春祭りや七夕などの行事で、交流を深めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者以下3名で行ったが、サービスの成果に関する項目は全員で行った。自己評価の意義を理解し、まだ至らない点もあり、地域密着というものを意識したという。前回の評価の要改善点は即改善され、運営推進会議で報告されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は事務長の交代もあり、まだ一度の開催である。メンバーに民生委員の方の参加があるものの、自治会を通して地域の理解と支援を得るまでにはなっておらず、サービスの向上に活かしていく会議になっているとは言いがたい。	○	メンバーに入居者の方々の参加と、地域密着型となったグループホームにおける運営推進会議の意義や役割を理解していただき、ホームが地域により認知され協力が得られるためにも、自治会長さんの参加を再度要請することをお願いしたい。そして、外部評価の結果も踏まえた活発な意見交換の場となるよう期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政は町内のグループホームのネットワークを立ち上げたいと意欲的であり、職員の待遇なども考えながら質の向上に取り組んでいこうとしている。ホームも地域包括支援センターを含め情報交換を行い、行政のアドバイスも受けている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時入居者の状況や、「小遣い預かり帳」にて金銭の報告がなされている。毎月発行される「ゆうしばただより」でホームの様子を伝えたり、家族の知りたい情報に応えるために、入居者の生活の様子がわかる個別の報告もなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画の話し合いの時など、意見や要望を言ってもらえるよう毎回働きかけをしているが、なかなか言って貰えないとのことである。今後も入居者の家族の立場に立った働きかけをし、積極的に聴く努力を続けていただきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職の際には何日か入居者と一緒に過ごしてもらい、前任者からスムーズに移行できるよう配慮している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画はないが、町主催のグループホーム部会や、県のグループホーム連絡協議会の研修など積極的に受講し、報告書により共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会の交換研修など交流を持ち、今後町内の4ヶ所のグループホームの交流会を予定しており、情報交換の場としていきたいとのことである。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学をして貰い、一緒にお茶を飲みながら入居者と交流するなど柔軟な支援をしている。入居当初は家族にできるかぎり面会に来てもらい、入居者との関係をこわさないような配慮もしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や料理の味付け、あやとりなど昔の遊びなど教えてもらうことも多く、話しを聴いているだけで勉強になるという。掃除や洗濯物たたみ、趣味のカラオケや将棋、囲碁など楽しみながら共に行っている。		
1、 1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に意見を求めたり、観察をしながら入居者の思いを汲み取り検討し、安心して暮らせるよう支援している。職員は本人の思いを汲み取ることを大切に思い、毎日のケアにあたっていると話してくれた。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月に一度ケアカンファレンスを行い、毎日の話し合いも含め、本人、家族は面会時や介護計画の説明時に希望を聞き、また主治医の意見を反映させた介護計画を作成している。あまり希望がない場合も本人が安心して暮らせるよう検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前回の計画について評価し、三ヶ月に一度見直しを行っている。家族との話し合いは基本的にできているが、家族の要望をもっと引き出す対応の仕方を検討していただきたい。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は原則として家族が行うことになっているが不可能なことが多く、買い物や理・美容院の付き添いもほとんど職員が行っている。状況によっては多機能性を活かしたショートステイ・デイサービスを考えていきたいとのことである。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は馴染みのかかり付け医の受診となっているが、ホームの協力医が往診を行い、良好な関係が築かれている。訪問歯科によるアドバイスももらえる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化にともなう意志確認書のような文書化されたものはない。現管理者の着任以前ホームでの看取りを行ったことがあるが、職員の意思統一がされていないまま行われたために、職員は大変だったという。現時点では医療体制など整っておらず、終末期ケアは考えていない。	○	ホームが対応できるケアについて職員で話し合いを進め、重度化に伴う意志確認書を作成し、方針の統一を図っていただきたい。医療関係者との話し合いも進め、そして状況の変化に伴い、入居者・家族が安心してサービスを受けられるような支援をお願いしたい。
１．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては文書化されており、個人記録などは鍵がかかる場所に保管されている。人前でのあからさまな誘導・声がけなど行わない配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の表情は明るく、それぞれのペースで過ごしている。買い物など外出の希望はよく聞かれ、職員と出かける。その時の気持ちを尊重した対応をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配業者の献立に沿ったものであるが、畑から収穫されたものであったり入居者の嫌いな物に配慮しながら、入居者と一緒に調理をし、後片付けの茶碗ふきも行っていた。職員も同じテーブルにつき、おしゃべりをしながら和やかに食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望にそえるよう毎日入浴できる対応を行なっている。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせ、夜間入浴の希望もあれば、今後検討していただきたい。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や調理、菜園の手入れなど、その人の得意な分野で楽しみながら行えるよう働きかけている。ドライブや外食は頻繁に行っており、入居者も楽しみにしている。入居者のその日の気分を考慮し、少人数で出かけることもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に行くこと、ドライブ、外食は入居者が希望することも多く、できるかぎり希望にそえるよう支援している。頻繁に外出していることがうまく家族に伝わっていないと思われるので、詳細な報告をお願いしたい。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけておらず、外出した際の行く先は把握しており、見守りで対応している。町の実地指導で玄関にセンサーを取り付けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルや地震発生対応マニュアルを整備し、消防署立会いのもと年2回の避難訓練を実施し、そのうちの1回は夜間想定訓練である。飲料水の備蓄をし、今後地域の協力も得られるようにしたいとのことである。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材の宅配を利用しているが、季節感を感じるようアレンジすることもある。水分摂取量も必要に応じてチェックし、1ヶ月に1回体重測定を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの日めくりカレンダーや振り子時計が設置され、食堂兼居間にある畳のコーナーは、こたつの季節になると利用が多くなるという。大きな窓から暖かな日差しが差し込み、向かいにある公園も眺められ、ゆったりと過ごすことができる。入居者の住んでいた家から持ってきた金木犀の香りが季節を感じさせていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームに入ることを十分納得して入居した方の居室は、仏壇、使い慣れた家具が持ち込まれ、その人らしい部屋になっていた。ホームは一時的に居る所と荷物をまとめ、表札を外してしまう人もおり、それぞれの居室になっていた。		